

令和7年度第3回印西市立図書館協議会会議録 要旨

- 1 開催日時 令和7年12月24日（水）
午前10時00分から午前11時20分
- 2 開催場所 印西市文化ホール 2階 大会議室
- 3 出席委員 黒澤委員長、大和副委員長、飯尾委員、和田（亜）委員、中嶋委員、石ヶ谷委員、関口委員、樋口委員、久門委員、和田（剛）委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 中嶋生涯学習課長、秋山大森図書館長、根本大森図書館副館長、伊藤主査、岩井主査
- 6 傍聴者 4名
- 7 会議内容 （1）「生涯学習に関する事務の一部と文化、文化財に関する事務の市長部局への移管について」に関する状況報告
（2）その他

会議要旨（要点筆記）

【会議録作成のための録音機材の設置と会議公開に伴う傍聴席の設置の了解、会議成立の報告】

【課長あいさつ】

【委員長あいさつ】

〈議長〉 それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただく。
会議の円滑な進行に協力をお願いしたい。

【会議録署名委員の指名】

〈議長〉 はじめに、本日の会議録署名委員の指名を行う。
名簿順をお願いしたい。今回は久門委員を指名させていただく。

【会議内容】

（1）「生涯学習に関する事務の一部と文化、文化財に関する事務の市長部局への移管について」に関する状況報告

〈議長〉 会議内容（1）「生涯学習に関する事務の一部と文化、文化財に関する事務の市長部局への移管について」に関する状況報告を事務局よりお願いしたい。

- 〈事務局〉 「生涯学習に関する事務の一部と文化、文化財に関する事務の市長部局への移管について」に関する状況報告)
- 〈議長〉 重要な説明があった。なかなか重い議題だが皆さんの意見を伺いたい。
- 〈委員〉 見送りになったということだが、再検討ということか。
- 〈事務局〉 教育委員会部局から市長部局への移管がなくなったことで、市全体として組織の見直しの議案上程がなくなり、図書館業務については引き続き教育委員会で業務を行っていく。
- 〈議長〉 9部から11部になり新しく地域共創部ができ、地域共創部の中に図書館が入る、そうですね。
- 〈事務局〉 もともと予定していた案については、2ページの『部の再編案』のとおり、現在の9部体制から11部体制に変わり、上から5番目の地域共創部の中に図書館課を新設し市長部局へ移る予定だったが、組織の見直し自体が見送りになったので、この11部体制が見送りになった。
- 〈議長〉 11部になると思ったがそうではない。
- 〈事務局〉 議案を上程しないので、体制は見送りとなる。
- 〈議長〉 今まで通り教育部のままで良いのですね。
- 〈委員〉 確認ですが、地域共創部にはならないということで良いのか。
- 〈事務局〉 市長部局へ移管された場合としての資料なので、この部は創設しない、地域共創部はできない、という意味です。
- 〈議長〉 この資料があったので、11部になると思ったが、基本的には今まで通りということですね。
- 〈事務局〉 今まで通りだが、条例改正を必要としない課の編成や係の増設な

どの調整は行う予定で、市全体を動かす条例改正を必要とする組織の見直しは行わない。見送るという判断になったので、条例改正を伴わない範囲の中で組織の見直しができるか行革の方で検討しているところである。

〈議長〉 それについては、2月か3月の会議で教えてくれるということですね。

〈委員〉 これについては見送りで、再検討もしないということで部は今まで通りで課等が変わるということか。

〈事務局〉 再検討は行わないで、来年度に向けては条例改正の伴わない組織の見直しを市全体で行っていくこととしている。

〈委員〉 市長部局へ移管するかしないかということ、図書館をより活性化し充実させるために市長が考えてくれている、提案してくれているということで、それをもとにいろいろな意見が出て、中立の立場等も考え改革ありきではなく、より良くするためにどうしたら良いかとの話し合いがされたということを知り、良い機会だったのかなと思った。

市長はとても前向きで、図書館をより充実させたいという考えで行ったけれども、市長が変わった時に果たしてそれが持続されるのかということ懸念していたと思うが、それがいろいろな意見を聞いて改編ではなくて、違うところをもっと充実させられるのではないかと、今まであまり自覚してなかった人達が、図書館に対してこういう考え方があるのだということを知る機会になったので、個人的な意見だが良かったと思った。

その改革を考えた中で、再検討ということで見えていくとこのようになるというと思うのが、細分化された時にそれぞれの部局がバラバラでそれぞれ違うことをやるのはとても困る。

今学校に来ているのがリーディングDXの推進で、パソコンなどの環境が子どもたちにも整っている、デジタル化して、例えば図書館と学校とをどのようにつないでいこうか、学校としても考えていかなければいけない時期が来ている。行政の中でもチャットを利用して情報交換ができるとか、細分化されてそこだけが小さく行うのではなく、それぞれが風通し良く印西市が行ってい

るリーディングDX、パソコン等のツールを使ってのコミュニケーションがより深まるのなら良いと思う。

その他に、何回も言っているが、図書館を充実させるためにそれを実際に行う学校で言うと学校図書館司書がいて、今こんな本をこどもたちが読みたがっているとか、DXがあるからもっと図書館と繋がろうとか、一校に一人いてくれるともっと繋がるのではないかと思うので、そのようなところにお金をつぎ込んでもらえるととてもありがたい。

資料を見ると、11部になって図書館など復興させてくれそうな課の名前がついていて、具体的にすることによって動きやすくしてくれているのかと思うので、地域が活発になる形で考えてくれるのであれば再検討はどんどんしてもらい、誰が変わっても動ける体制は保ってほしいと思った。

〈委員〉

前回の協議会の時に市長部局の案を聞かされて、この先どうなるのかととても心配していたが、見送るということでほっとした。見送るということがこれで終わりになったのか、また市長部局に移管という話が出るか、これからも心配しながら見ていかなければいけないのか。市長は教育長の仕事が多忙で教育長の多忙さを軽減するために市長部局に移管するという説明を聞いたが、教育長の忙しいところは他の方法で軽減できるように考えて、図書館は教育委員会にずっと残してほしいと思っている。

〈委員〉

組織の話ばかりになっている。私は専門ではないせいか、図書館業務が市長部局であろうが教育委員会の管轄であろうが関係なくて、ただ我々市民にとってより良い図書サービスが実現できるのであればどちらでも良いと思っている。

前回の説明の時も、組織を変えることによって何をするのかという具体的な方策が一つもなかった。前回の資料を見返したが、市長部局へ移管する事務、図書館に関する事、その一言しかなくて、何が変わるのかが全くなかったので、意見の言いようがなかった。

今日もこれを検討しますと意見を求められても、やはり何も答えられない。市長部局にならなくても良いし、11部体制にならなくても良いけど、何を具体的にやりたいのかを言ってもらえれば、あるいは議論してこうなったと教えてもらえれば、それに対

する意見は言える。例えば、図書館の施設自体の箱物をもっと大きくして育児施設と統合した新しい施設をつくりたいとか、図書館の選書の体制を抜本的に変えて新しい仕組みにするとか、イベントでこんなことをして図書館が地域行政の中核になることにより印西市を成長させるとか、何か言ってもらわないと、意見の言いようがないというのが正直なところである。もしそのようなことが今具体的に進んでいるのなら、市長はこういうことをやりたいと思っているから、こういう組織体制にしようということを検討していると教えてもらえるととても嬉しい。

〈委員〉 一つ質問で、先ほどの説明で条例改正が伴わないものと、伴うものがあった。基本的な質問だが、その区別はどこにあるのか。

〈事務局〉 条例改正が必要なものについては部の新設や統廃合などによるもので、係や課の増設、課名を変えたりなど、部の直下のものについては、条例改正の必要がないというものになる。

〈委員〉 今回は部の改編で、条例改正が伴うものをいったん取り下げたということですね。

〈事務局〉 そういう形であり、今日お配りした資料はこの案になるものではなく、あくまでも全員協議会で説明した時の資料の抜粋となるのでこの11部体制というのは今回に限ってはもうないという状況である。

〈委員〉 もう一つ、市長部局に改編することについて話し合いがされたわけだが、私は市長が変わることによって行政が変わることは良い意味があると思う。今回、国際化をしたいということを受け止めて市長に期待をしているけれども、図書館に力を入れたいと今の市長がどういう意見、構想があるか、ビジョンや、教育、図書館についての構想などを聞ければ良いと思った。

〈事務局〉 図書館のサービスは、市長部局に移行しようが教育委員会のままであろうが図書館のサービス計画に沿って行っていくものと考えているが、その中で、地域との結びつきや社会教育が地域づくりの一資源というものにもなり得ることもあるので、連携を図って

いければと考えている。

〈委員〉 今日ではなくて良いが、市長の教育または図書館、市民の教育についての構想があれば聞きたい。
意見として申し上げる。

〈議長〉 前回の会議でも同じだが、事務局から図書館協議会委員へ資料の提供が不足している。いきなり教育部から市長部局に移管しますという話があり、用意するのは大変難しいと思うが、市長がどういふ思いで図書館を市長部局に移管したいか、地域コミュニティや地域活性化、まちづくりのためには、公民館や図書館は大変重要な施設である。それについては市長部局に関してもっと力を入れろと聞いている。また、市長が紫波町の図書館を視察している。私の知っている限りでは図書館の所管はだいたい教育委員会だが紫波町の図書館は市長部局で、最近図書館界では紫波町の図書館というのが大分クローズアップされている。市民のために良いサービスをし、行政の中で横断的に連携協力が盛んに行われ、市民サービスが進んだ図書館ということで市長が視察し、これは良いということで市長部局にという市長の思いがあったと伺っているが、協議会の皆さんに対して市長の思いの資料が不足している。前回もそうだが、今回も資料がちょっと不足していると思っている。10月から12月までの2ヶ月間くらいに非常に動きが激しかったので、資料の提供が難しかったとは思いますが、少なくとも私は資料をもらっているので、市長の思いは分かっているつもりである。そんな経緯があり、市民の活性化、地域づくり、まちづくりは大事だというふうに、図書館は大事だというふうに思ってくれていると私は大変嬉しく思った。

〈委員〉 今のは紫波町ですか。

〈議長〉 岩手県の紫波町。
全国に良い図書館はたくさんあり、千葉県のパ安市の図書館もそうである。まちづくり、図書館はとても大事だということをトップが認識すると、図書館に光が当たって資料費や職員などサービスが一気に膨らんでくる。首都圏だけではなくて、地方にもどんどん広がっているというので紹介されて、最近では小布施の図書

館や、佐賀県伊万里の図書館など、素晴らしい図書館が日本全国にたくさんあるが、そのような図書館は市町村長の思いが強いと図書館の発展やサービスがとても良くなる。私は、今回印西市長が変わり、図書館がクローズアップされるのはとても喜ばしいと思っている。そういう経緯があるが、ただし資料不足だと思う。

〈委員〉

なぜ市長部局に移管するのが全然見えなかったが、今の議長の話を聞いて、図書館に光が当たったからそういう話が出てきたということが分かって、安心したような気持ちになった。

実は私は、印西市の子ども読書活動推進計画第一次の作成に関わっていて、生涯学習課の指導主事が中心になり子育て支援課などのいろいろな人たちと一緒に第一次案を作成した。その時は、学校関係者だったので学校図書館のことしか分からなかったが、図書館教育というのは生まれた時から死ぬまで繋がっているということが良くわかった。それで生涯学習課が中心になって作ったのだということも。

こどもの読書活動の推進には学校教育というのは欠かせないものだから、教育委員会から図書館が外れてしまうと、そこはどのように連携して行くのだろうと見えなかった。

教育委員会と図書館との関わりを切らないようにすることを前提にして組織運営に当たってもらえると、非常にありがたいという思いがしている。よろしくお願ひしたい。

〈議長〉

ありがとうございます。

〈委員〉

あまり意見というものはないが、希望として図書館と教育委員会と市長の連携が今後もう少し密に取っていただけることを願うばかりだ。私は実際の会議に行けなかったので、雰囲気的なことを図書館協議会委員以外の人から話を聞いたが、正直、市長が言いたいことがよく見えない。最後の2時間ぐらひは市長が話していたけれども、組織として共に作り上げていくということよりは、市長の思いだけで走っている状況に不安を感じていると意見として聞いていたので、思いついただけではないことを願っている。紫波町の図書館が良いということは聞いているが、一過性、瞬発的な事象に留まらないでほしいという願ひがある。それを伝えたい。

〈議 長〉 ありがとうございます。

〈委 員〉 質問二つと意見を述べさせてもらいたい。
一つ目の質問で、この組織改編はなくなって見送りになり図書館は今まで通り教育部の所管になるが、その中で図書館課はできるのかどうなのか。
司書資格を持つ図書館長の採用を進めていることを聞いているが、進捗状況はどうなっているのかを知りたい。

〈議 長〉 二点お願いします。

〈事務局〉 一点目の図書館課の新設についてはまだ決定していないが、教育委員会としては、図書館課の新設を要望しているところである。
二点目の司書館長については、この議題が終わった後のその場で説明しようと考えているので、その時でよろしいか。

〈委 員〉 わかりました。
先ほどの議長の説明で、本当に市長の思いで図書館にスポットが当たったというか、図書館のポテンシャルに市長が注目して、変わる時なのではないか、確かに潮目が変わる良い時期なのではないかと思っているが、その思いを市長部局ではなくて教育部の所管のままでも十分に実現できるのではないか。できれば再検討はそちらの方向で行ってもらいたいと思う。委員の話聞いても、学校教育に公共図書館は欠かせない、切り離せないものだと思うので、その結びつきを守るためにも、教育部の所管であるべきだと思う。市長部局に移管した場合、中立性には十分配慮することを考えていると言っているが、具体的にどういうことなのかは全然見えてこないし、不安もある。毎回言っているが、私たちはいろいろな図書館を見学していて、その中で教育部所管でも運営がとてもうまくいっていて、評価の高い図書館がいっぱいある。紫波町だけではなくて、そういうところもできれば市長にも見てもらいたいと思う。実際私たちが行って、感銘を受けた図書館の例として、多摩市の多摩市立図書館がある。
印西市は図書館や公民館に若者の賑わいを取り戻したい、行きやすい場所にしたいという意図があると聞いているが、教育部所管の図書館でも十分に若者の賑わいは反映できているという例を見

てきた。多摩市の場合は賑わいのフロアと、従来の図書館のイメージの静かな静寂のフロアが別になっている。その賑わいのフロアは、こどもたちの児童コーナーはもとより驚いたのは中高生や大学生、地元の学生たちが放課後に募っていて、喋っても良く、本当に賑やかでびっくりした。学校の課題をグループでやったりしているのか、あるいはその勉強以外の活動をするにしても、ちょっと調べ物をしたいなという時に、図書館は本当にうってつけの場所だと。そのように生かされているのを見た。

気分転換にはカフェも併設されていて、目の前には公園があるという立地で図書館が生き生きとした集いの場所になっている。学生たちが行きづらい場所ではないという実態を見てきたので、教育部でも十分実現できると思う。もう一つ、私たちが行った日に特別支援学級の校外学習が行われていて、車椅子の生徒たちが図書館の中を不自由なく動いていて調べ物をしていた。

歩きやすい広々とした通路があって、自然な動線の配慮ができていた。それもやはり教育委員会の下でだからでき、実現できたのではないかと思う。

牧の原に図書館を含む公共施設ができるのではないかという話を聞いて、それが実現する時には多摩だけではなく、うまく運営している図書館の事例も入れて検討していただきたいと思う。

〈議長〉

ありがとうございます。

図書館には図書館法がありそれに基づいて行っている。図書館サービスについては、図書館法の第三条で謳われており、学校への支援や協力というのはそこで謳われているので絶対にやらなければならないことで、それは所管が教育委員会であっても市長部局であっても同じで、図書館職員は絶対に守って働いている。学校司書は絶対に必要で25人募集したと聞いているが多分それでは2校に一人の配置だと思うので、ぜひ全校配置をお願いしたい。私は図書館協議会委員を仰せつかりこれで3期目になるけれども、まず1期目は大変びっくりした。資料費も職員も本当についていなかった。1期2期3期で今6年になり、教育委員会や図書館の館長や職員の努力で今は資料費も随分上がってきたし、司書職員も募集しているので良くなっていくと思っている。

一昨年は図書館サービス計画も作り、指定管理者の諮問も受けて答申も出した。その時に思ったのは子文連の方はいろいろな図書

館を視察し世間のことをとてもよく勉強していて、委員からはぜひ指定管理者や直営で行っているところ、指定管理から直営に戻したところなど、サービス計画を作る時に視察させてほしいと言っても印西市は外に出さないのか、視察等に行かず、個人で行ってほしいという話で、それにはびっくりした。ぜひ外の世界を行政の担当者の方たちに見させてもらいたいという要望がある。

市長だけが良い図書館を見るのではなくて、行政の方も司書職員についてもぜひ外に行ってみてもらいたいし、図書館協議会委員も今からでも連れて行ってもらっても良いくらい外の図書館をぜひ見てもらい、良い図書館を目指し見聞を広めてくれれば良いと思う。

もう一つ、サービス計画もでき少しずつ図書館サービスが良くなっている。印西市は駅の近くの住宅街の良い場所に相当規模の図書館が6館ある。サービス計画に基づいて、各館が連携したサービスを展開すればとても良い図書館サービスになると思う。今館長を募集しているが、館長の力を借りて連携協力し、図書館サービスを推進してもらえればと思っている。人口も子どもたちもとても多いし、注目されている市でもある。新聞でも印西市のニュースを見る機会も多い。市長が図書館は大事だから、市民の活性化とかコミュニティ、まちづくりには大事だから、市長部局に持って行って、もっと活性化を図りたいというふうに聞いた時、私は大変喜んだ。

サービスが活性化して図書館に日が当たるのであるならばそれもまた良いのではないかと思った。サービス計画があるわけだから作っただけではなくて、少しでも市民の方に喜ばれるような図書館を目指してくれるような再編等が行われると良いと思っている。

他に何か言い忘れたこと、言っておきたいことはありますか。

〈委員〉

学校側なので言いにくいですが、学校図書館でもあり地域のものでもあるので、市全体の図書館も学校教育も社会教育も全部盛り上がっていくと良いと思いながら、先生方の話を聞かせてもらった。以前事務局から総合教育会議を Youtube で配信をするとの手紙ももらっていたので、今日の会議の前に見てみた。市長がとても良く考えてくれていて、公民館業務も含めて印西市全体を盛り上げようとしているのが伝わってきた。何とかして、協議会も含めて

うまく力になれば良いと思っている。

学校にいますので、学校から見た図書館の側面に関するものが強くなってしまうが、いろいろな市民活動の強化も含めてやっていくとなると、所属が学校は教育委員会教育部であったり、市民活動は市民部となると、市長が再編しようとしたのも分かるような気がしている。

今教育委員会にある図書館がどこに所属するかはもちろん大事だが、何を狙うかによってはそれだけにこだわってはいは駄目な気もしていて、もっともっと話し合いが進んでいくと良いと思っている。市民の図書館でもあるので、学校教育とうまくリンクしながら、全体が盛り上がっていけるように手伝いができれば良いと思っている。

〈議長〉 ありがとうございます。他に、どうぞ。

〈委員〉 色々委員から市長はどんなことをしたいのか、今回ではなくて良いので具体的に提示してもらえればとの話もあったが、例えば市長部局にすることでのメリット、具体的にこんな良いことがあるから移そうとしているとか、図書館課を作るとこんなことができるようになるというのが、活性化や迅速化だけでは分からないので、具体的にこれをする事でこういうことができるようになるから進めていますとか、その辺が見えてくると良いので今後教えていただければと思う。

〈議長〉 ありがとうございます。

〈委員〉 色々聞いていて、市長がやりたいことは今まで総務部や企画財政部、それぞれの部が孤立しているのではないが連携が足りなかったもので全部に手を入れて再編成をしたいという気持ちなのかなと思った。部の名前を見ると、例えばこども未来部等が魅力的な名前になっているが名前を変えるだけでは駄目なのかもしれない。市民部と教育部の図書館等が力を合わせないと、大きいことができないのかなと感じたので、再編を考える、仕組みは分からないがそれぞれが協力して何を作り上げるというのは、同じ目標を持ってそれぞれの部が力合わせられるようなDX等を進めて行ったら良いのかなと思う。

- 〈委員〉 先ほどから委員の皆さんの意見を聞いていて、やはり具体策がないのに組織の話をしている。先ほども市長が具体的に何をやりたか教えてくださいという質問に対して、地域の連携を取ることですというような答えがあったが、それは具体的にどういうことなのかを言ってもらえれば、だから市長部局にしたいのだなとか、だからこういう動きがあるのだなと言えらると思う。先ほど議長が見せていた資料もホームページにあるものですよね。
- それも見ただけど、市長の思っていることは確かに伝わるけれども、やはり具体的に書かれていないので、何か旗印を掲げてもらい、これだったら予算とか計画策定のスピードのことを考えて、市長に大きな権限を与えないといけないよねというような、そういう順番で進めるべきだと思う。この後どのようになったかわからないけれども、例えば具体的にこういうことを市長はしたい、あるいは市の行政をしたいと思っている。それを掲げた上でパブリックコメントを取るなり、こういう協議会やいろいろな外部機関との諮問を経た上で意見を収集し、組織をどうしましょうというような進み方にしたら納得感が高まると思う。
- 〈議長〉 ありがとうございます。他にいかがですか。
- 3回目の図書館協議会だが、今回の協議会委員の出席率も良いし、それぞれの立場に立った活発な意見をいただいて、ぜひこの会議録を市長、教育長にも目を通してもらえると大変嬉しいと思う。他に宜しいですか。どうぞ。
- 〈委員〉 先ほど牧の原に新しい図書館の計画があるということを言われたと思うが、初めて聞いた。
- 何か具体的に計画があるのか聞きたい。
- 〈事務局〉 先ほど話が出た牧の原エリアの複合施設については、図書館という話ではなく、図書コーナーとして例示しており、連携はあるかもしれないが、図書館ではなく複合施設の中の図書コーナーという想定になっている。
- 〈議長〉 大きな図書館は大事かもしれないけど、今、印西市には図書館が6館あるので、大森図書館なり小倉台図書館を中央館にして、館

長の手腕でうまくサービス計画を推進するために、統括管理してサービス計画を推進することは可能ではないかと思っている。
他にこの件は良いか。
状況説明が終了したので、その他に移る。事務局より説明をお願いしたい。

(2) その他

- 〈事務局〉 (図書館長の登用について説明)
- 〈議長〉 このことに関して何か質問、意見はないか。
- 〈委員〉 公募の方法というのはどのような方法か。
- 〈事務局〉 職員の採用については、パブリックコネクトというサイトで職員の募集を行う。
募集の周知案内は、市のホームページ、公式X、LINE、その他 SNS を活用したり、公益社団法人日本図書館協会での募集の掲載、その他に市長、教育長の動画メッセージをパブリックコネクトに掲載する予定となっている。このようなものを活用しながら館長を募集したいと考えている。
- 〈委員〉 ネットのことはよくわからないが、パブリックコネクトというのは、誰でも見ることができるのか。
- 〈事務局〉 誰でも見ることができる。市のホームページからアクセスすることができる。
- 〈委員〉 わかりました。
- 〈議長〉 他には何か。
- 〈委員〉 進んでいるようで安心したけれども、令和8年度からというところ3ヶ月ぐらいしかないと思うが、具体的なスケジュールはどのように考えているのか。4月1日から新しい館長が来るようになるのか。

- 〈事務局〉 採用予定は令和8年4月1日からとなる。
- 〈委員〉 ではあと3ヶ月ですね。
- 〈委員〉 4月1日からの採用となると、その前に内定となりますよね。それはいつ頃決定となるのか。
- 〈事務局〉 決定ではないが、募集の期間は令和7年12月25日から令和8年2月2日までということを用意している。
- 〈委員〉 複数応募があった場合は面接や経歴を考慮して採用を決定し、任期は1年になるのか。
- 〈事務局〉 任期については5年以内の範囲で採用時に決定するということになる。
- 〈議長〉 もし応募がなかった場合のことも考えているのか。
- 〈事務局〉 現時点ではそこまでの想定はしていない。応募してもらえるものと考えている。
- 〈議長〉 日本図書館協会や県等への相談はしているのか。
- 〈事務局〉 図書館協会の方にも募集の案内をしていて、図書館協会のホームページの中で募集案内が出ると思う。
- 〈議長〉 それは言葉ではなくネット上のことか。電話や何かで話してはいないのか。
- 〈事務局〉 採用の事務は人事課の方で行っているので、人事課から図書館協会と連携しているものと認識している。
- 〈議長〉 県立の図書館等も人事の方で行っているということですね。
- 〈事務局〉 募集になるのでそれを見た人が応募してくれる前提になるが、情

報提供できるところには情報提供していると認識している。

〈議 長〉 館長と離れるが、職員の募集もしていると思うが、それも教えていただきたい。

〈事務局〉 司書職員は、3名程度募集していると思う。そちらの状況については把握していない。

〈議 長〉 分かりました。

〈事務局〉 今、任期付職員も募集している。今回4名募集しているので、そちらも採用手続きを進めているところである。

〈議 長〉 任期付は司書職員ということですね。

〈事務局〉 司書職員である。

〈議 長〉 もちろん声をかけていると思うが、任期付司書職員も実力や経験や知識がある人が多いと思うが、そういう人も司書に応募しているということですよ。年齢制限はあると思うがそういう人たちを司書職員に登用ということはないのか。

〈事務局〉 正規職員への応募ということについてはあくまでもその職員個人の考えだと思うので、正規職員は無理だけでも任期付職員であればできると任期付職員を応募してくる人もいると思う。あくまでも個人の判断での応募であると認識している。

〈議 長〉 館長については2ヶ月という短い募集期間だが良い方が応募してくれると良いと思っている。日本図書館協会も相談に乗ってくれると思うので、本当に困った時にはそういう手もある。

〈委 員〉 図書館協会で評判の良い図書館館長や、全国の図書館、色々な図書館の中で評判の良い図書館の館長を引き抜くなど、そういう計画はないのか。

- 〈事務局〉 あくまでも公募により応募してもらい選考するという形を取っている
ので、そのような考えはない。
- 〈議 長〉 他には良いか。館長の公募関係についてはこれで終了したい。全
般を通して最後に何か意見がなければ終了し事務局に返したいと
思う。
- 〈事務局〉 貴重な意見をありがとうございました。
以上をもちまして、令和7年度第3回印西市立図書館協議会を終
了します。1年間お疲れ様でした。また、来年もよろしくお願
いします。本日はありがとうございました。

令和7年度第3回印西市立図書館協議会の会議録は、事実と相違ないので、当協
議会は、これを承認する。

令和8年2月27日

印西市立図書館協議会

委員 久門 恵子